

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/07/01 ~2019/07/31 )

### 1. 勉学の状況

今月はドイツ語会話と大学の講義科目の2つのテストがありました。Studienkolleg Sachsenでは大学の通常科目よりも早くにテストが行われるため、ドイツ語会話の方が先でした。このテストは口頭試験形式で、他の学生と2人組で受けます。まず前半では授業で扱ったテーマが書かれたくじを引き、それについて5分ほど語るというものです。自分はここで「„Bildung(人間形成、教養)“と„Ausbildung(専門教育)“の定義の違いはなにか」というものを選び、日本語でも説明に困るようなことを苦勞しながら回答しました。後半は2人組パートナーとのディスカッションで、同じく授業のテーマの中から1つ、くじ引きで決めます。テーマはポリティカル・コレクトネスでした。例えばドイツ語では、男性教師のことを„der Lehrer“、女性教師を„die Lehrerin“と男女で別々の単語を用いますが、その煩雑さと性差別的であることからニュートラルに„die Lehrkräfte“と表記しよう、という動きがあるそうで、他にも排斥的な„Ausländer(外国人)“ではなく„Menschen mit Migrationshintergrund(移民背景のある人々)“と表記するなど、数多くの例があります。日本語には身分や職業を男女別に表記する文法がドイツ語に比べ少ないと思いますが、「看護婦→看護師」や「障害者→障がい者」などの例がポリティカル・コレクトネスに当てはまります。ドイツ語は少々やりすぎではないかと個人的には思うのですが、ドイツ人はこういう部分に几帳面で、そもそも彼らとは言語感覚が違うので一概には言えませんが、差別を無くそうとする動きが盛んな昨今ではよく考えるべき問題ではないかと思います。と、こんなことを考えながら試験を受けましたが、正直言ってあまり満足のいく試験ではありませんでした。取り扱いの難しい問題について言語化するの(外国語ではなおさら)非常に難しいです。もう一つの講義科目のテストは、ドイツ文学史についての口頭試験でした。文学の時代区分(Epoche)から一つを選んでその概念等を説明するものと、それとは別の時代にかかれた文学作品の一つを選び、それについて語るというもので、全部で15~20分ほどでした。こちらは準備期間が十分にあったのでうまくできました。一つだけうまく答えられない設問がありましたが、結果的に1,3の成績を貰えたので満足です。

その他のドイツ語の授業でも成績表をもらい、聴講していた授業でも授業終わりに教授にTeilnahmescheinのサインを頼むとECTSが2ポイントほどもらえました。Germanistik学科の場合はそれらの証明書をLearning Agreementの諸々の書類とまとめて学科に提出すると最終的な成績証明書を発行してもらえらしいです。自分はエラスムスの学生ではなくただの協定校間の留学生だと思っていたのですが、ライブツィヒ大学にとってそんなことはどうでもいいらしく、エラスムスの学生と同じ書類を書かされました。

授業期間が終わって今は夏季休暇に入っています。3か月近くも休みが続くのでこれからどう過ごそうか決めかねていますが、勉強面ではとりあえずドイツ語で書かれた本を読んだり文法書

を進めたりしながら語彙を増やしていきたいと思っています。

## 2. 生活の状況

前回の報告書でキッチンが汚いと書きましたが、さらに酷くなりました。ゴミの分別を全く考えずに何でもゴミ箱に放り込まれるので悪臭を放ち、大量のハエが飛び回る有様でした。そのうえ誰も処理しようとしなかったのになんとかそれを片づけ、「生ごみや液体は捨てないでくれ」と書いた張り紙を張っておきました。それで少しはましになったかもしれませんが、いまだにキッチンは汚いままで。もしこれ以上悪化するようならハウスマイスターに言いに行こうと思います。



今月頭にはテストがあったのであまり身動きが取れませんでした。終わってからは色々出かけました。ヨーロッパ最大級の規模といわれているライブツィヒ動物園や電車で20分ほどで行ける隣町Halleに足を伸ばしたり、湖のビーチで友達とピクニックのようなものをしたりと夏らしいドイツを満喫しています。海が近くになくキレイな湖がいたるところにあり、地元の人に人気の憩いの場となっています。お年寄りも泳いでいたりして驚きです。ただこの夏は本当に過酷になりそうなのでこうした形で暑さをしのごうとするのもわかります。ライブツィヒ近辺以外では前からずっと思ってきたかったハンブルクと、その近くの町ブレーメンに行きました。どちらも非常に美しい街でした。

このセメスターで帰ってしまう留学生が多く、その人たちのお別れパーティに参加することが何回かありました。春から来て春に帰るといって留学をするのは日本か中国・台湾の学生くらいのもので、たいていはみんなこのタイミングで母国に帰ってしまいます。せっかく仲良くなった友達とすぐに別れることになるのは惜しいです。日本人留学生仲間からはいらなくなったものや日本食の調味料などをもらいました。こっちに来てから色々な場面でよく助けてもらっていたので本当にありがたいです。休暇期間は学食が夜には閉まってしまうので、これからはなんとか自炊を頑張らなければなりません。



ライプツィヒ動物園  
住民登録の際にもらったクーポンで割引価格で  
入場できました。

学生オーケストラのコンサート  
ブリテン『戦争レクイエム』

学生団体による戦争の想起イベントの一環とし  
てたまに行われているようです。



隣町の Halle  
Semester Ticket で行けるのでお金をかけずに  
行けます。

ハンブルクの倉庫街（世界遺産）

